

“地域の当たり前”に光を当て、 仲間を募り楽しみながら形にしていく人



田口 雄 (たぐち ゆう) さん 新篠津村総務課商工観光係 係長

1985年秋田県出身、38歳 明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業後、鉄鋼の専門商社で営業マンとして10年余勤務。転勤先の苫小牧での暮らしで北海道に愛着がわき、令和2年度から社会人採用枠で新篠津村の役場職員として勤務。

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。24回目となる今回は、新篠津村が持つ魅力を外の人につなぐために、持続可能なイベントなどを作り上げている田口雄さんです。

新篠津村の住民、役場職員になったきっかけを教えてください

秋田で高校生までを過ごし、東京で大学生となり、商社に就職して東京、仙台、鶴岡、苫小牧と転動しました。苫小牧勤務の時に、北海道で暮らしたいと考えました。休日に道内各地をドライブする中で、どこまでも平坦で、防風林がある景色が好きだと気がつきました。新篠津村の景色はそれにぴったりでした。そ

して、鶴岡勤務の時にいった、水耕栽培のための金属機器を作るプロジェクトを市役所の方と共に行った経験から、「地域のためになる仕事ってやりがいがあるな、次の仕事は公務員がいいな」と決心しました。

役場での最初の仕事はどんなものでしたか？

商社での営業経験と人と会って話すのが好きという経験や特色から渉外をやりたいと面接時にお伝えしました。おかげで商工観光の部署に配属されました。2020年4月、ちょうどコロナの初期でした。村内の飲食店に「スタンプラリーのチェックポイントになってほしい、さらにオマケをつけて貰えないか」とお願いする仕事に着手しました。これは北石狩、南空知の広域の事業でした。競争ではないのですが、参加自治体の中で一番多くの協力店を獲得できました。10の飲食店のうち9つが協力してくださる参加率の高さを含め、嬉しかったですね。

移住者として新篠津村の印象を教えてください

仕事終わりに散歩するのが好きなんです。その中で、あれ！これって特別じゃないの？と気がついたことがあります。星は空を仰ぐ、上を向いて見るものだと思っていたのですが、新篠津村では目の前に星があるのですよ。周りに背の高い建物がないことや、光源が少ないことが理由かもしれませんね。この星をアピールして、村外の人を呼び込むことによって、観光資源にできると思いつきました。空気は澄み渡り、星の美しさは際立つばかり。満天の星が輝く夜空は新篠津村の大きな魅力です。

具体的にはどんな取り組みなのですか？

2021年8月に「ふれあい公園星座観測場」が完成し、観測会を実施しています。ベンチと星座早見盤を模した看板を設置しましたから、気軽に星座を探ることができます。観測会で星を楽しく見るためには、星の説明してくれる専門家がいてほしいということになりました。新篠津村出身で札幌の青少年科学館で学芸員をされている方のご縁をたどりお願いに行きました。この方のおかげでお知り合いの天文仲間も望遠鏡を寄付してくださるなど強力な応援団ができました。今年もペルセウス座流星群が見頃となる時期などに2度のイベントを開催しました。さらに今年の秋には珍しいフルオープン式の天文台が完成します。

冬のイベント「新篠津天灯（ランタン）祭り」も注目されていますよね

スカイランタンは、「燃料の付いた大きな紙風船」です。ヘリウムガスやLED、ひもつきなどが一般的ですが、新篠津村では、火を付け暖かい空気が中に溜まると遥か上空に飛んでいく伝統的な本場の方法です。雪原の中で幻想的な雰囲気に包まれます。アジア各国では、魔除けや豊作の祈願など願い事を書いて飛ばす伝統行事ですよ。農村地帯の新篠津村にピッタリだと思います。2021年度に石狩振興局、北海学園大学との連携事業として、大学生のアイデアで始まったイベントです。2年目からは新篠津村観光協会主催で実施しましたが、学生ボランティアも大勢来てくれました。3年目の今年は2日間のイベントとして犬ぞりレースや巨大雪像、キッチンカー、ジャズ演奏など

もあり盛り上がりました。初年度はコロナの中での実施だったこともあり村民限定で約300人、2年目は600人、3年目は1,500人と参加人数が確実に増えているのです。

イベントを行う上で心がけていることは？

火を使うイベントということもあり、当初は危険じゃないのか？畑に落ちたランタンが雪解け後に農家の人に迷惑になるのではないかとといった心配をする方々が少なくありませんでした。でも、地域特性を活かして新しいことをして、村の人に喜んでもらい地域の価値を再認識し誇りを持つことにつながるイベントなので、何としても実行したいという思いで、関係者に丁寧に説明しました。山がない新篠津村では、ランタンは雪原（水田、畑）に落ちますので、イベント翌日にランタンを拾いに行きました。また2年目からは、仮に拾いきれなかったとしても、土に戻る材質のランタンを採用しました。

今後取り組みたいことをお聞かせください

「新篠津村=空のまち」としてのブランディングの確立です。天文台、ランタンなど今日お話しした新篠津村の魅力となる、観光スポットやアクティビティ、イベントは空に関するものが多いのです。また、村のイベントとして一番歴史ある「青空まつり」では、気球の係留飛行や、グライダー、パラグライダーの編隊飛行、ドローンサッカー体験なども行っています。1年を通して空がテーマのイベントが多い新篠津村。美しい空を守るために環境負荷を減らすなどの取り組みも併せて行っていきたいと考えています。

(2023年9月取材)

インタビュー後記

「夢中で仕事されていますね！やりがいや手応えがあって楽しそう」と声をかけたくなる人に、久しぶりに会えました。ご自分では気づいていないかもしれませんが、田口さんの存在が新篠津村に生まれ育った人たちに、勇気と元気を与えているはず。新篠津村の360度を見ることができ星空の美しさに驚き、この魅力を多くの人に知ってもらいたいと思い行動する姿は、リーダーそのものです。田口さんに案内してもらい新篠津村の素敵さを再確認したくなりました。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表